

# 御殿堰 大黒天便り



## ◆第一五号◆



山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。  
「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど!』と思っただけの内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第一五号です。

## ◆行け行け干し柿隊事業◆

二〇一一年一〇月一五日の柿収穫・六日の柿加工と柿を干す工程を経て、水の町屋御殿堰二階に、綺麗な橙色の色彩が加わりました。  
干し柿作りの第一日目には、一本の木から五〇〇個もの柿の実を収穫することができました。  
渋柿とのおことですが、橙色がとても鮮やかで美味しそうに見えます。色彩につられてか、鳥の往来が増えたような気がします。  
これらの渋柿が美味しい干し柿になるには二〜三週間ほどかかります。一週間ほど経過すると、外皮が固くなつてきます。その状態になったら、指で押すようにして軽く揉みます。数日後にまた揉むことで、表面は固いけれど中が渋いということを防ぎます。揉むことによつて渋が早く抜けて甘くなります。



## ◆行け行け干し柿隊事業 Part 2 開催◆

一〇月一五日・一六日に開催した「行け行け干し柿隊事業」御好評につき、第二弾を開催致します。

- 【日程】十一月三日(日)
- 【時間】九時〜一五時
- 【会場① 柿の収穫】山形市柏倉・八幡中部落
- 【会場② 干し柿作り】山形市七日町 水の町屋御殿堰2階
- 【費用】無料
- 【特典】特選呉服結城屋謹製「飾り柿」柿(渋柿・自分で作った干し柿の持帰り)

### 【進行】

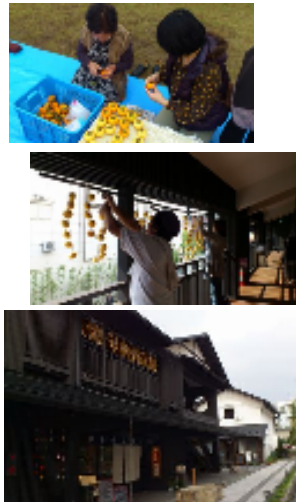
- ① 柿もぎ隊
    - 九時・八幡中公民館集合・説明
    - 九時半・収穫作業開始
    - 一一時半・作業終了・昼食
    - 一二時半・七日町に移動
  - ② 干し柿隊
    - 一時・作業場準備
    - 二時・実演宣伝開始
    - 三時・収穫班と合流
- 干し柿作り開始

### 【申込方法】

「参加者の名前・住所・電話番号」を電話またはFAXでご連絡下さい。折り返し、参加受付のご連絡を致します。

### 【問合せ(高橋)】

〇七〇(五四七八)〇九〇二  
〇二三(六三五)二四五〇



## ◆光のプロムナード◆

山形の冬の風物詩「光のプロムナード」。年末年始恒例のイルミネーションは、今年もあたたかい光で街を包みこみます。水の町屋御殿堰では、施設内の樹木他に「かくれたイルミネーション」があります。  
覗きこまないとい気が付かない場所なのですが、発見した時の歓声がたびたび聴こえてきました。  
光のプロムナードは、山形市七日町大通りの「十日町角」文翔館前までの約一五〇メートルに渡って開催されます。あたたかいイルミネーションを楽しみに、是非七日町へ足をお運びください。

### 【開催期間】

二〇一一年一〇月一八日(金)  
〜二〇一二年一月一〇日(火)



〜山形の冬の風物詩〜  
「第二十回 光のプロムナード2010」@御殿

## ◆湯殿山神社

### 「熊手市」と大露店市◆

湯殿山神社境内と文翔館前広場が熊手などの露店で賑わいます。をみせる。(露店は湯殿山神社西側の道路)

### 【日時】

一一月二二日(火)〜二三日(水祝)

## 山形あれこれ

### ⑫ 宝紅庵

『もみじ公園』の名前で親しまれている『宝紅庵』は、山形市東原町にあります。  
宝紅庵は山形市内で最も美しい庭園と言われ、植栽された古木のモミジや山形の扇状地に生えていたケヤキ・杉など幾重にも重なり合つて池に映る緑陰の姿に足を止めて写真撮影をする方も多いでしよう。  
山形城の始祖斯波兼頼公が民心の安定をはかるために、大曾根の庄にあった古寺をここに移して真言宗の宝幢寺を建立しました。  
一六六五年前後、時の城主松平下総守忠弘が、江戸の庭師と共に山形城の本丸庭園の余石と吉野の紅葉を用いて、自ら石組みなどに入れた庭として伝えられています。当時は小さな池を設けていたそうですが、一八八六年当時の松平直矩公(後に姫路城に転封された)の姫君が病氣になり、寺で祈願した所よくなったと伝えられている。松平公は御札に京都の高尾山から紅葉を取り寄せ、大小の庭石を並べ、回遊型の庭園を作つたと言われています。この庭園には築山が三つ、三尾の山(高尾・榎之尾・梅之尾)があり、池は「心字池」で小堀遠州流を伝える池泉回遊庭園と言われる名園になります。  
美しい庭園を借景として、昭和五三年に清風荘の隣に「宝紅庵」という茶室が設けられました。茶室「宝紅庵」は二年に渡つて建てられ、全ての流派が利用できる市民の茶室として親しまれています。  
現在は季節は、『もみじ公園』の名前の通り「紅葉」の美しい季節です。



六十里越 伊賀町  
材木

次号の発行は十二月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。